



学校だより

令和 3年 2月26日

3月号

めざす子ども像

ともに学び、よりよい生き方を見つけ出すしろさとっ子

横浜市立城郷小学校



気づかい

校長 巴 幹晴

2週に1度のTV朝会で、先日、休み時間の校庭で見た出来事をきっかけに話をしました。

子どもたちは、ドッジボールや鬼ごっこ、縄跳びなど、元気に遊んでいます。そんな中、ドッジボールをしていたグループのボールが、縄跳びをしていたグループの子の背中にあたってしまいました。ボールを拾いに行ったあなたは、①、②、どちらの行動をとりますか。

- ① 自分が投げたわけではないので何も言わずにボールを拾って戻る
- ② 「ごめんね、大丈夫？」などと声をかけて拾って戻る

子どもたちはどう答えようとしていたでしょう。

あたった側の気持ちを考えると、

- ① ボールをぶつけたのに何も言わずにボールを拾っていった
- ② あやまってくれた

などと、それぞれ感じることでしょう。

学校では様々な衝突やけんかの事情を聴き取る際、きっかけとなった場面、言葉などを思い出させ、それぞれの考えたことやその時の気持ちを伝え合い、確認します。そして、お互いの事情が分かったところで「どうすればよかったか。」「今、どうしたいか。」を考えます。たいていは、相手の気持ちを考えた言動が出てきます。(気づかない場合は、教師が論じます。)そこで仲直りをして日常に戻っていきます。トラブルが起きるたびに繰り返し繰り返し積み重ねていきます。そこいらじゅうに状況の違うきっかけがたくさんあります。きっと地域やご家庭でも、同じようなことをたくさん繰り返して下さっていることと思います。察しがよくなって衝突を予防するなど、行動が変わるのは個人差がありますが、自分が変わると周囲も変わることが多く見られます。

日常生活でおきるトラブル解決の経験が、人との接し方や行動の仕方を学ぶ機会となり、変容、成長へとつながっていきます。

先日、SNSでの子どもたちのトラブルが増えていることについてお便りをお配りしました。

対面して話せる環境においても衝突やけんかが起きるのですから、相手の表情や状況の見えないSNSではもっと起きやすいはずですが、相手の状況が見えない場面では、より一層相手への気づかいが必要になるでしょう。映画やドラマなどで、電子メールのなかったころの手紙がでてくると、家族あての手紙でも相手を気づかう言葉が敬語で綴られていることが多いように思います。

そういえば、「こんにちは。お変わりありませんか。」「おかげさまで。」という、まちの人たちのご挨拶は、相手の方や周囲の方への気づかいから始まっていました。

一年間の地域、ご家庭でのご協力に心より感謝申し上げますとともに、今後もお力添えくださいますようお願いいたします。

とうきょうにいぜろにいぜろ
東京2020



いちぼん

さくぼん

しろさとせろいちいぜろ
城郷0120

